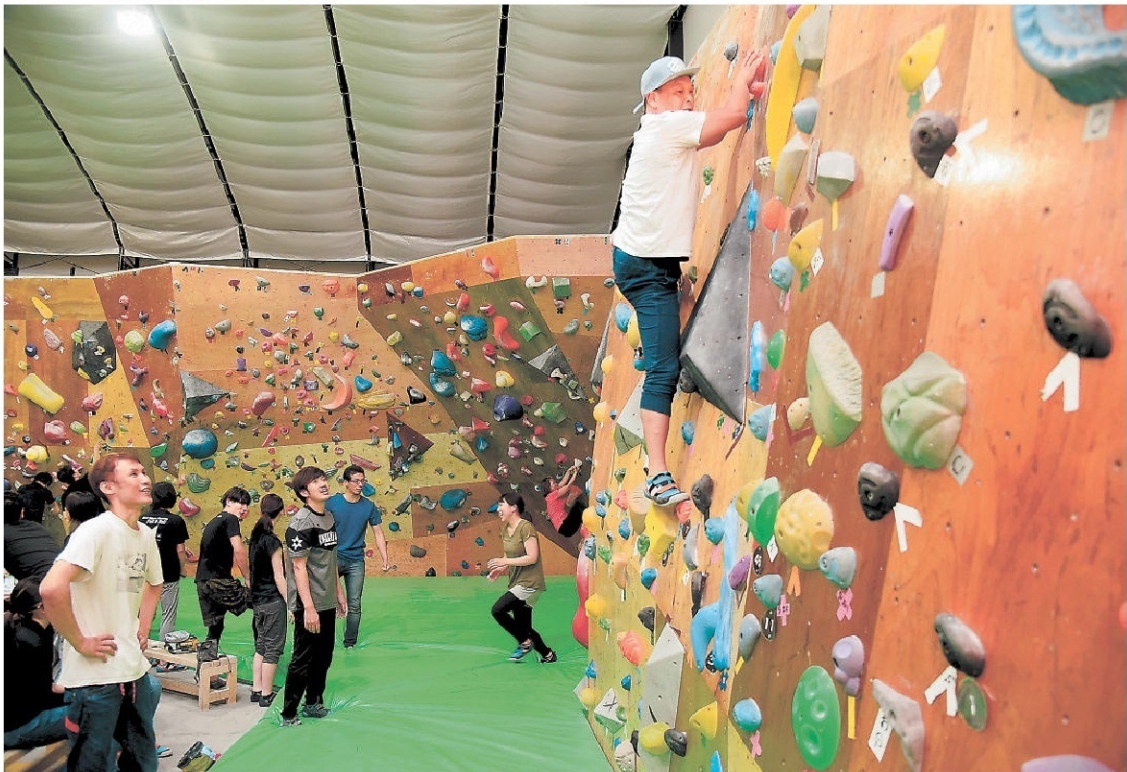


ボルダリングを通して異業種の社員が親睦を深めた交流会＝大垣市和合本町、ひょうたん島大垣店



社員交流ボルダリング

大垣市 異業種5社が親睦会

大垣市内の企業に勤める社員がボルダリングを通して親睦を深める異業種交流会が18日、同市和合本町のひょうたん島大垣店で開かれた。企業間のつながりの構築や、社員の健康増進、チーム力の強化を図る。(杉原康仁)

同店は、ボルダリングやダンス、ダイビングのスクールを展開している。4月には、小学生を対象としたスポーツクライミングクラブを設立するなど、ボルダリングの普及に力を入れる。今回は、異業種の社員とコミュニケーションを図り、企業全体の活性化を目的に初めて開いた。

市内5社から28人が参加し3チームに分かれて15コースに挑戦。初心者も多く、同店のスタッフでスポーツクライミングの元選手である森下信宏さん(36)からルールの説明を受けた。

未経験者は、経験者から「そこに足をかけて」「下半身の手も利用して」とアドバイスを受

活性化へ、出会いの場に

初体験の大垣西濃信用金庫歩行町支店、飯田陽介さん(32)は「交流の場が広がり、共通の話題もできる」と魅力を語り、「一人だと挫折しそうだが、みんなががんばれー」と励まし合いながらやれたので楽しかった」と話していた。

ひょうたん島大垣店を運営するカネショウ・コニーの山田耕慈社長(54)は「ボルダリングが出会いの場になり、元気な会社をつくるきっかけになれば」と意気込む。

今後は、参加者の技術の向上に応じて大会も開く予定。

は、悪戦苦闘しながらもゴールまで到着。拍手をしたり、ハイタッチしたりしてみんな嬉しかった。